

ミルクティー

のようにホッとできる地域づくりをお手伝い！

《第11号》

発行日 2009年11月

編集・発行

社会福祉法人 三田市社会福祉協議会
(担当 地域福祉係)

住所 三田市川除 675 番地

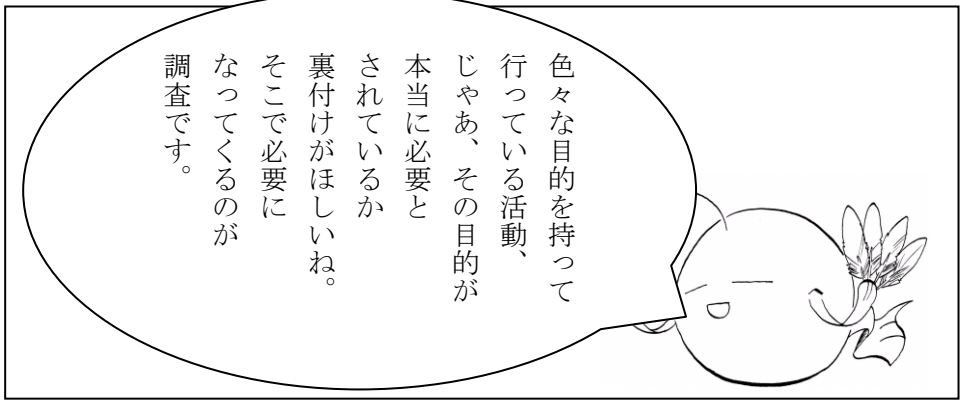
三田市総合福祉保健センター内

TEL 559-5965 FAX 559-5945

Email chiiki@sanda-shakyo.or.jp

これから何かを始めるとき、これまでの活動を見直す時、自分たちが何を目的にやっていたのか再確認することが大切です。

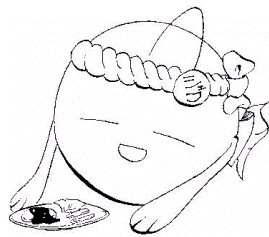
そのためには今地域はどのようなニーズ（要望や困り事）を抱えているのか、色々な場面で確認することが大切になってきます。



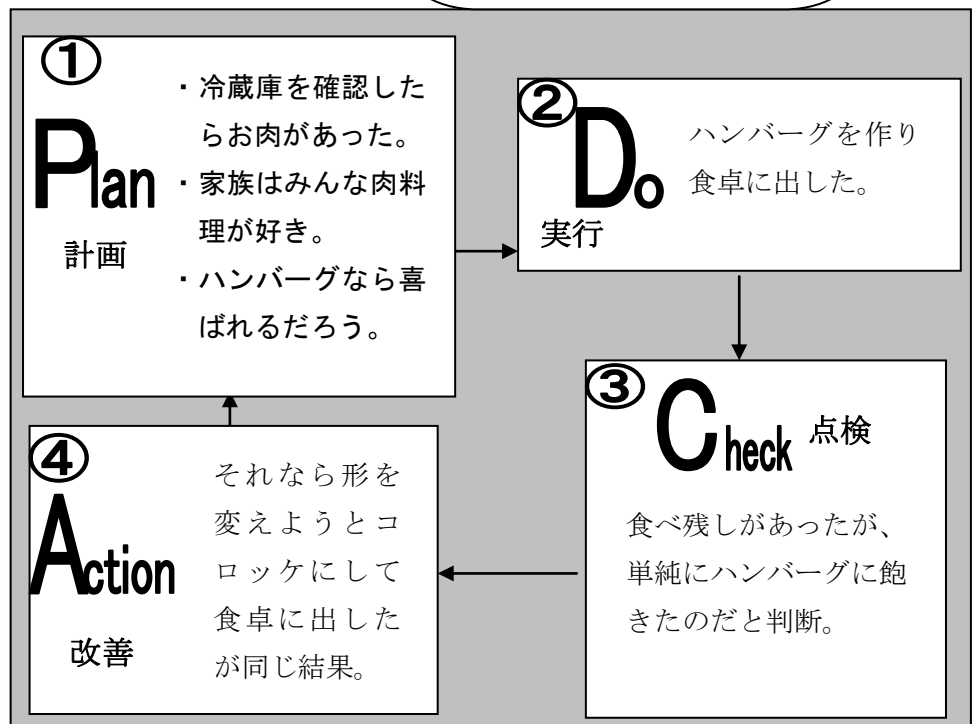
自分たちの役割・やりがいを教えてくれる“Research”（調査）

せっかく色々な目的や想いをこめて行っている活動も、地域のニーズとマッチしていなければ活動を理解してもらえなかったり、参加者が少なかったりすることでモチベーションの維持も難しくなってしまいます。まずは調査がなぜ必要か、例をもとに考えてみましょう。

地域福祉活動を料理作りにたとえると…



さて、今晚のご飯は何を作ろう？冷蔵庫にお肉がある。家族は皆、肉料理が大好き（Plan:計画）そう思ってハンバーグを作ったら（Do:実行）、お皿を見るとたくさんの食べ残しが…（Check:点検）、飽きてしまったのかと、次はコロケにした（Action:改善）のだけどやっぱりあんまり食べてくれない。どうしてでしょう？



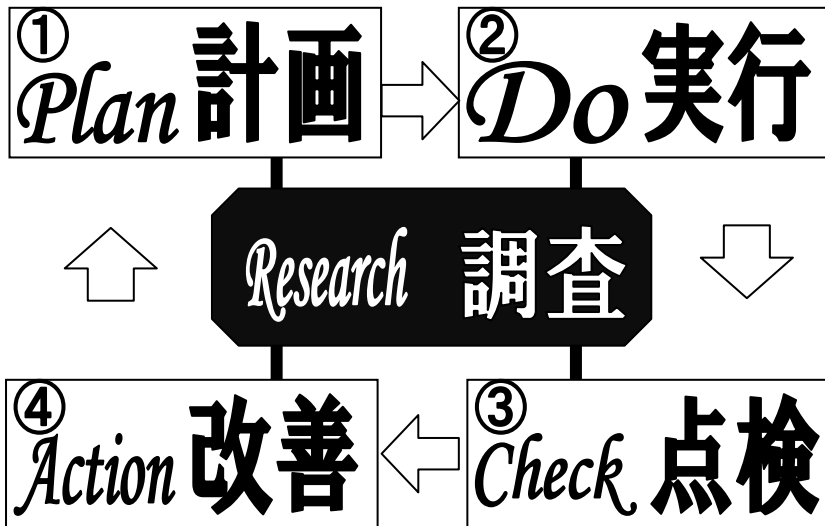
家族の”声”(Research:調査)を元に食事をつくと…

『食事が残る』という例えは、地域福祉活動で言うと『本当に来てほしい人に来てもらえない』、『地域の理解が得にくい』ということです。

<R (Research : 調査) を取り入れたやり方を見てみましょう!>

なぜ料理が残ったのか聞くと、家族からは「もうすぐ健康診断だから」、「給食に肉料理が出た」と返答が。そこで今度はサラダなど野菜中心の料理を作ると全て食べてもらえました。

つまり、事業の対象になる人(例では家族)のニーズや状況を知る(調査する)ことで次のような事業(料理)を考えたら良いのか、非常にわかりやすくなります。



Research (調査)に
支えられると
PDCAサイクルの
各段階が考え
やすくなり

活動への
やる気も
あがります。

まとめ

Research (調査) で実際の声を聞いて活動を進めると、自分たちがやろうとしていること・目的の裏付けができていますので、活動していく上での役割などが明確になり、活動に関わる皆さんのやる気がわいてきます。

特に長年続けられている活動などについては、その感想などをお聞きしてより良いものになるよう少しずつ変えていくのもいいかもしれません。

お役立ち！情報コーナー

例えばこんな方法があるのでは？

調査というと堅苦しく、大規模なものをイメージしがちですが、要は地域にどんなニーズ(要望や困り事)があるかを知ることです。

皆さんが身近でよく見聞きするこんなところにヒントがあるのではないのでしょうか。

- 地域の役員(区・自治会役員や民生委員・児童委員、健康推進員など)としての活動の中でお聞きした困りごと
- ふれあい活動推進協議会や住んでいる地域の活動、その他様々な活動参加者へのアンケート
- 自分たちの住んでいる地域の特徴(坂道が多い、高齢者が多いなど)をどう感じているか話し合う
- 三田市が発行している『のびゆく三田』など、広報誌を参考にまちの様子を知る